

首相のシンガポール・フィンテック・フェスティバルでの基調講演

影響力を持つ金融界の代弁者である、ターマン・シャンムガラトナム シンガポール副首相、優れたフィンテック機関である、シンガポール金融監理局のラヴィ・メノン長官、世界 100 か国以上からお越しの何十万人もの皆様、

ナマスカール（こんにちは）！

シンガポール・フィンテック・フェスティバルで基調講演を行う初めての政府の長であることを光栄に思います。

これは、しっかりと将来に目を向けるインドの若者への賛辞です。

インドで急速に広がり、13 億人の生活を変革している金融革命の認知です。

このイベントは、金融と技術のイベントであり、祭りでもあります。

今は、インドでは「光の祭りーディーパワリ」の季節です。このお祭りは、美徳・希望・知識・繁栄の勝利として世界中で祝われます。ディワリの光は今でもシンガポールで輝いています。

フィンテック・フェスティバルもまた信念のお祝いです。

変革の精神と想像力を信じること。

若者のエネルギーと変化への情熱を信じること。

世界をより良い場所に変えていくと信じること。

このフェスティバルが 3 年目にしてすでに世界最大のフェスティバルとなったことは、驚きではありません。

本年 6 月、私はここシンガポールで、インドの世界クラスの総合決裁インターフェース「UPI」を使った初の国際送金モバイルアプリ「RuPay（ルペイ）カード」の立ち上げを行いました。

今日、私は、フィンテック企業と、ASEAN およびインドの銀行をはじめとした金融機関を結ぶ、グローバルプラットフォームを開設する栄誉を得ました。

インドとシンガポールはまた、インドのプラットフォームに支えられ、インドとASEANの中小企業を結び、そしてグローバルに拡大させていく努力をしています。

友人の皆様、

私は、スタートアップの世界でよく言われている助言を耳にしました。

- ベンチャー・キャピタルを10%増やしたいなら、貴方は通常のビジネスではなく、「プラットフォーム」を運営している、と投資家に言いなさい。
- ベンチャー・キャピタルを20%増やしたいなら、貴方は「フィンテック・スペース」を運営している、と投資家に言いなさい。
- しかし、投資家に、彼らの持っているすべてのお金を投資してほしいと真に思うなら、貴方は「ブロックチェーン」を使っていると言いなさい。

これは、金融の世界を変革していく新しい技術の興奮と可能性について物語っています。

実際のところ、金融は、しばしば新しいテクノロジーや接続性を最初に取り入れる場所だと歴史が示しています。

友人の皆様、

私たちは今、テクノロジーによる歴史的変革の時にあります。

デスクトップからクラウド、インターネットからソーシャルメディア、ITサービスからモノのインターネットに至るまで、私たちは短期間のうちに大きな進歩を遂げました。

グローバル経済の性質は変化しています。

技術が、新しい世界での競争力と力を定義づけています。

そして、技術は人々の生活を変える限りない機会を作り出しています。

2014年、私は国連において、開発とエンパワーメントは、Facebook、ツイッター、携帯電話が広まったのと同じスピードで広がるのが可能だと信じるべきだ、述べました。

世界中で、今そのビジョンは現実へと速い速度で変化しています。

インドでは、それは統治と公共サービスの提供を変化させています。イノベーション、希望、機会をもたらしたのです。弱者に力を与え、社会の脇にいた人たちを主流に置いたのです。経済的なアクセスをより民主的にしました。

私の政府は、すべての市民、つまり最も人里離れた最も弱い人たちの生活に関わる包摂的な発展というミッションと共に、2014年に開始しました。

このミッションは、すべての人のための金融包摂という強固な基盤を必要としています。これは、インドのような規模の国にとっては容易な仕事ではありませんでした。

しかし、私たちは既存の考えでは数年かかるこの仕事を、数か月で達成したかったのです。

フィンテックの力とデジタル接続性の広がりによって、私たちは今までにないスピードと規模で革命を開始しました。

まず、金融包摂は13億のインド人にとって現実のものとなりました。私たちは、わずか数年で「アダー」または基礎と呼ばれる12億の生体認証身分証明を生成しました。

私たちは、「ジャン・ダン・ヨジャナ」政策で、すべてのインド人が銀行口座が持てるようにしたいと考えます。3年間で、3億3千万の新しい銀行口座を開設しました。3億3千万の身分証明、尊厳そして機会の源となります。

2014年時点では、銀行口座を持つインド人は50%未満でした。現在は、ほぼ皆が持っています。

10億以上の生体認証身分証明、10億以上の銀行口座、10億以上の携帯電話は、インドに世界最大の公共インフラを与えました。

政府からの3.6ラック・クロール ルピー（500億米ドル）以上の恩恵が、人々に直接届いているのです。

田舎に住む貧しい市民は、もう遠いところへ出かけて行ったり、仲介者にお金を払って自分の権利を得る必要はないのです。

偽物や複製の銀行口座は、政府の資金を不正に抜き取っています。私たちは、8万クロール（120億米ドル）ルピー以上のお金を流出から防ぐことができました。

今日、かつて不確実な生活をしてきた何百万の人々は、自分の銀行口座で保険金や老齢年金を確実に受け取ることができるのです。

学生は、奨学金を自分の銀行口座で直接受けることができます。終わりのない書類手続きの途中で失くしてしまうことはないのです。

銀行は、オーダーを使った 40 万のマイクロ ATM により、農村でもすぐ手の届くものになりました。

このデジタル・インフラは、今年、世界最大のヘルスケア計画の開始を後押ししました。「アユシュマン」は、5 億人のインド人に手が届く健康保険プログラムを提供します。

また、「ムドラ・スキーム」は、小規模の起業家に対する 1 億 4500 万の貸し付けを可能としました。4 年間で 6.5 ラック・クロール・ルピー（900 億米ドル）という額になりました。この貸付の 75% 近くが女性に対して行われました。

数週間前、私たちは、インド・ポスト・ペイメント・バンクの立ち上げを行いました。インド全国にある 15 万を超える郵便局と、30 万人の郵便サービス職員が、テクノロジーを使ってハウス・バンキングのサービスを提供しています。

もちろん、金融包摂には、デジタル接続性が必要です。

12 万を超える村の協議会は、30 万キロにおよぶ光ファイバーケーブルによって既に繋がれています。

30 万を超える共有サービスセンターは、デジタル・アクセスを農村にもたらしました。そのセンターは、農家の人々による土地記録、与信、保健、市場、ベスト・プライスへのアクセスを可能にしました。また、女性への保健サービスや衛生製品を提供しています。

フィンテックによってもたらされた他の大きな変革なしには、支払いや取引のデジタル化は、これほどの効果を得ることはできなかったでしょう。

インドは、多様な環境と課題を持つ国です。私たちのソリューションも、多様性がなければなりません。私たちのデジタル化は、支払い製品が皆のニーズに適していたために成功したのです。

携帯電話やインターネットを持つ人にとっては、BHIM-UPI は、口座間の支払いを行うための、バーチャル・ペイメント・アドレスを使用した、世界で最も洗練された、素晴らしい、シームレスなプラットフォームです。

携帯電話は持ってもインターネットは持っていない人にとっては、12 言語で利用できる U.S.S.D システムがあります。

そして携帯もインターネットも持っていない人には、オーダーを使った、生体認証を用いた支払いシステムがあります。これは、すでに 10 億のトランザクションが行われており、2 年間で 6 倍に増加しました。

RuPay は、支払いカードを誰もが手に届くものにしました。4 年前まで銀行口座を持っていなかった 2 億 5 千万人が今は手にしています。

カードから QR、ウォレットに至るまで、インドにおけるデジタル取引は急速に成長しています。今日、インドの 128 の銀行が UPI に接続しています。

UPI を使ったトランザクションは、過去 24 か月に 1500 倍に成長しました。トランザクションの額は、毎月 30%以上成長しています。

しかし、スピードのみならず、私は、デジタル・ペイメントが生む機会、効率、透明性、簡便性に触発されています。

小売店主の人は、オンラインで在庫を減らし、回収を早めることができます。

果物を育てる人にとっては、農家であれ職人であれ、市場が近く直接的なものになり、収益が増加し、支払いが早くなります。

労働者は、賃金の回収または家への送金を 1 日仕事を休んで行う必要はありません。

すべてのデジタル・ペイメントは、時間の節約になります。これは巨額の国家的な節約を増やすことになります。個人と国の経済の生産性を向上させます。

また、税の回収を助け、経済に公平性をもたらします。

さらに、デジタル・ペイメントは可能性の世界への入口となります。

データ分析と人口知能は、あらゆる範囲の人々に対する付加価値サービスの構築を助けています。ここには、信用履歴がほとんどまたは全くない人々に対するクレジット取引も含まれます。

金融包摂は、中小零細企業にも及びます。

このような中小零細企業は、1年少しあまり前に開始された、全国の物品税デジタル・ネットワークに含まれています。

銀行はこうした企業にクレジット取引を提供しています。代替の貸し付けプラットフォームは、革新的なファイナンス・モデルを提供しています。中小零細企業は、高い利率のクレジット取引のために非公式市場を利用する必要はもうないのです。

今月、私達は1000万ルピー（15万米ドル）までの中小零細企業への貸し付けを、59分以内で承認することにコミットしました。銀行を訪れることさえしなくてよいのです。クレジットの決定に、物品税申告書、所得税明細書、銀行取引明細書を使ったアルゴリズムを利用することで可能となっています。数日のうちに、そのような15万の企業が融資を受けられることになりました。

これが、企業、雇用、そして繁栄をもたらすフィンテックの力です。

デジタル・テクノロジーは、政府の電子取引の場である GEM のような革新を通して、透明性をもたらし、汚職をなくします。これは、政府の省庁による購買のための統合プラットフォームです。

ここではすべてが提供されています - 検索と比較、入札、オンライン注文、契約書作成、そして支払いです。

既に 60 万の製品が置かれています。3 万近い買い手と 15 万以上の売り手やサービス提供者がこのプラットフォームに登録しています。

友人の皆様

インドには、フィンテック・イノベーションと企業の大規模な拡大があります。それにより、インドは世界でも主要なフィンテックとスタートアップの国となりました。フィンテックとインダストリー4.0の将来は、インドで現われつつあります。

インドの若者は、ペーパーレス、キャッシュレス、プレゼンスレス（そこに行かなくてもよい）でありながら、安全な取引をすべての人が利用できる、という夢を可能にするためにアプリケーションを開発しています。これが、「インドニア・スタック」という、世界で最も大きなアプリケーション・プログラム・インターフェースの驚くべき点です。

彼らは、人工知能、ブロックチェーン、そして機械学習を使い、銀行、規制機関、そして消費者へのソリューションを生み出しています。

彼らはまた、インドの社会的使命である、保健、教育、マイクロ・クレジット、保健等を支えています。

このインドの巨大な才能プールは、「デジタル・インドニア」や「スタートアップ・インドニア」といった構想から作られた生態系と、それを支える政策、インセンティブ、資金プログラムから恩恵を受けています。

また、インドは、世界最大のデータ消費国であり、データ料金が最も安い国です。そして、フィンテック採用度が世界で最も高い国の一つです。ですから私はフィンテック企業やスタートアップの方々に申し上げたいのです。インドは貴方にとって最適の行先です、と。

インドにおいて規模の経済が達成された LED 電球は、このエネルギー効率の良い技術の世界でより手の届きやすいものにしました。同様に、インドの広大な市場は、フィンテック製品を規模で達成し、リスクとコストを下げ、そして世界的になることを可能とするでしょう。

友人の皆様、

短く申し上げれば、インドのストーリーは、フィンテックの6つの偉大な恩恵を表しています。アクセス、包摂、接続性、生活のしやすさ、そして信頼性です。

最後に、私たちは、将来のために、技能の創造に投資をしなければなりません。そして、長期的なアイデアや投資を支持することの用意をせねばなりません。

私達は、インド太平洋地域からアフリカ、中南米に至るまで、素晴らしいイノベーションが巻き起こり、一般市民の生活を一変させている様子を目の当たりにしています。

しかし、まだ私達に出来ることは沢山あります。

私達は発展の恩恵が、社会的弱者にまで普く広まるよう注力すべきです。

現在、世界には銀行を利用したことの無い人が17億人います。これらの人々を正規の金融市場に誘導しなければなりません。

また、世界の非公式経済部門に従事する何十億人もの労働者に対し、保険や年金といった社会保障を提供しなければなりません。

ありとあらゆる人々が夢を叶えられるよう、そして資金不足によって起業を諦めることのないよう、私達はフィンテックの技術を活用すべきです。

銀行や金融機関のリスクへの耐久性、金融詐欺への対応力、既存金融モデルの混乱への対応力を高めなければなりません。

私達は技術を活用しコンプライアンスや規制、監督体制の改善を通じ、イノベーションを開花させリスクを封じ込めなければなりません。

また、フィンテック技術をマネーロンダリングや金融犯罪防止に活用するべきです。

新しい金融市場が台頭しつつありますが、既存の金融市場を結ぶデータネットワークやシステムが信頼でき安全なものであれば、これらの新興金融市場も成長できます。

そのためには、サイバー攻撃などの脅威に晒されるグローバル金融システムの安全性を確保しなければなりません。

フィンテック技術開発の前進スピードが世界の人々の不利益ではなく、利益となるよう気を配らなければなりません。特に金融部門における技術革新は、社会的弱者に直接的な影響を与え、彼らの生活改善を確約するものでなくてはならないのです。

また、包括的な政策や技術の利用といった様々な機会についての市民意識の向上や教育に注力するべきです。

このために、フィンテックは、単にメカニズムではなく、運動である必要があります。

そして、私たちは、データ所有権やフロー、プライバシーや承諾、私的・公共財、法律と倫理、といった避けられない問題を解決しなければなりません。

友人の皆様

それぞれの時代にはその時代の機会や試練があり、その時代を生きる世代には自らの未来を形作る責任があります。

私達の世代は世界中の人びとの手の中に、未来を形作ることができます。

歴史上、これほど多くの機会に恵まれた時代はないでしょう。

私達は何十億人の人びとの為に、機会を具現化し繁栄をもたらすことができるのです。

また、富裕層や貧困層、都市部や農村部住民、そして希望しか持てない人々と成功体験を持つ人々が住むこの世界を、より人道的かつ平等な世界に生まれ変わらせる機会も与えられています。

インドは他国から多くを学んでいます、私達もインドの持つ経験や専門知識を世界の皆様と共有したいと考えています。

なぜならインドを前進させる動機とは、世界にとっての希望でもあるからです。そして、私達がインドに対し描く夢とはインドが世界に対してもつ希望でもあるのです。

これは、この世界に住む私達全員が共有する旅なのです。

インドの光の祝祭は、インド国民に暗闇にある人に光を、そして絶望の淵にある人に希望や幸福を届けるよう呼びかけます。この度のフィンテック・フェスティバルは、人類の為により良い未来を届けるため、私達に一致団結するよう呼びかける光の祝祭なのです。

ありがとうございました。